

<主な視察先と視察テーマ>

ワシントン,D.C.とその周辺 = ニュー・アーバニストによる街づくり、統合型リゾート =

1. ケントランド/レイクランド:
ニュー・アーバニスト(DPZ)デザインによる伝統的近隣住区型郊外住宅地開発(1988年~)
2. ナショナル・ハーバー:
コンベンション施設、ホテル、レストラン、ショップ、エンターテイメント、カジノに加え集合住宅から構成される“統合型リゾート”(2008年~)
3. レストン・ニュー・タウン: エッジ・シティー型大規模郊外複合開発(1962年~)
4. アレキサンドリア: ニュー・アーバニスト達が規範とし、米国人がノスタルジーを感じるダウンタウンのまちなみ(1749年~)

フィラデルフィアとその周辺 = 田園郊外型住宅地開発 =

1. チェスナット・ヒル: 初期の田園郊外型住宅地開発(1870年代)
2. フィラデルフィア・オールド・シティ: ダウンタウンの賑わいの創出(2018年~)

ニュー・ヨークとその周辺 = “愛され続けられる郊外住宅地”とその管理、最新都市型住宅 =

1. ラドバーン: スーパー・ブロックと歩車分離による郊外鉄道沿線型住宅地開発と住宅地管理事情(1928年~)
2. ブルックリン地区: 都市再生を新築集合住宅とリノベーション、コンバージョンを含めて(2010年代中盤~)
3. ハドソン・ヤード再開発: 全米1の規模を誇る都市再開発を都市型住宅をも含めて考察(2019年~)



米国人がノスタルジーを感じるDPZによるケントランド/レイクランドのまちなみ



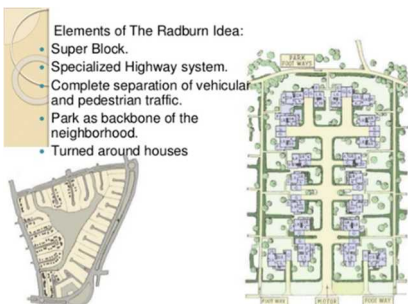
ポトマック河畔に開発された“IR”ナショナル・ハーバー



鉄道沿線型住宅地開発、チェスナット・ヒル



ラドバーンを象徴する広々としたCOMMON・グリーンと“歩車分離”の橋



ラドバーンのクールドサック



ハドソン・ヤード再開発地区



ブルックリン・ウィリアムズバーグ地区

< 同行コーディネーター >

佐々木宏幸氏

明治大学理工学部建築学科 専任准教授 / 合同会社FTS Urban Design社 代表

博士(芸術工学) 一級建築士 米国公認都市計画家(AICP)

横浜市出身 東京大学工学部建築学科卒業

カリフォルニア大学バークレー校大学院都市地域計画学科修士課程修了

(株)フジタ勤務を経て、ピーター・カルソープ事務所へ駐在し、数々のニュー・アーバニズム思想によるプロジェクトに携わったのち、在サン・フランシスコのアーバン・デザイン会社 Freedman Tung and Bottomley(2007年にreedman Tung + Sasakiに社名変更)入社

2005年7月より同社の共同代表を務める

2008年8月、FTS Urban Design 日本事務所設立、主宰

2010年度より本財団主催海外視察団においてコーディネーターを担当し、その深い造詣と行動力で団員はじめ関係者の高い評価を得る

アメリカにおいて「住民参加型まちづくり」「ダウンタウン活性化」などを専門に手がけたのち、現在は「戦略的なアーバン・デザインによる都市の再構築」を中心に活動中

< 行程略図 >

